

DOHaD研究第3巻第1号発行にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2016-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福岡, 秀興 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2761

DOHaD 研究第 3 巻第 1 号発行にあたって

日本 DOHaD 研究会 代表幹事 福岡秀興

日本 DOHaD 研究会は、現在設立 3 年目を迎えた揺籃期にあります。これから大きく発展していかねばならない対社会的責任の大きい学会であると私達は考えています。研究会発足に合わせ学会誌「日本 DOHaD 研究」が発刊されました。本学会誌への投稿を改めて強く呼び掛けます。DOHaD とは Developmental Origins of Health and Disease の略で、健康および疾病リスクの素因が、Developmental stage (受精から胎児期、乳幼児期、即ち人生最初の 1000 日間)に形成・決定され、その後の望ましくない環境がその素因に負荷される事で疾病が発症する。その分子機序はエピジェネティックス変化に由来するという学説です。ヨーロッパでは 19 世紀には既に経験的に知られていましたが、それを疫学調査から明確にしたのが David Barker であり、その慧眼には常に尊敬の念を禁じ得ません。それ以降多くの疫学研究・動物実験が繰り返され、現在は仮説から学説に進展し、今や生命科学の中心となってきました。世界的に NCD (non communicative disease)が増加しており、その対策・予防が喫緊の課題であります。それには DOHaD に基づく対策が基礎であると、WHO は明言しています。翻って日本を見ますと、出生数及び出生体重の著しい低下、発達障害児の増加、経済格差の増加に伴う社会的・家庭内のストレスの増加、小児及び成人の生活習慣病の増加、若年女性の低栄養の増悪、更に新たな環境化学物質の創出等が進展しています。これらには DOHaD の視点から対応していかねば、根本的な解決は不可能です。これらは世界的な流れではありますが、日本で特に著しい現象といえます。それだけに健康で健やかな次世代を生み、育む責を持つ私たちの世代の責任は大きいと考えています。その為には、この視点に基づいて、多方面の方々と共に考えていかねばなりません。即ち、生命科学、基礎・臨床医学、環境医学に加えて、栄養学、社会学、経済学、教育学、メディア等の専門家の方々との真剣な共同研究や草の根運動が絶対に必要です。井村裕夫先生(日本医学会会頭)は、疾病を予防するには、予防医学以上にその疾病の大元への介入が最も重要であり、それが先制医療であり、医学のあるべき姿と主張されています。今学会で特別講演をしていただきましたが、私たちの学会の責任の重さを改めて痛感させられました。以上より、この「DOHaD 研究」へ広く多方面の方々からの投稿を訴えたいと思います。今まで学術集会の抄録(既刊第 1 巻、第 2 巻)を掲載して参りましたが、第 3 巻より、投稿された総論や研究論文に対し査読を行い原著論文として掲載し、更に新たな情報を提示する学術雑誌として機能していく事を編集の基本と致します。なお第 3 回学術集会の演者の先生方には、講演要旨に基づいて更に詳しく論述していただく 2 次抄録または総論として投稿して頂く事をお願いしたく思います。どうぞ多く投稿していただき、学会員の皆様と共に対社会的に発信する学会誌として発展致した

く希望しております。